

令和8年度山口大学大学院人間社会科学研究科（修士課程）人文科学専攻
入学者選抜学力検査問題
「専門科目（思想－東洋思想史）」
出題の意図／解答例／解答（採点）の指針

I

【出題の意図】

倫理思想にはさまざまな形態がある。必ずしも学問的著作ばかりでなく、宗教的・文芸的著作のうちにも、また、儀礼や習俗といった文字化されない行為のうちにも、倫理思想を読み取ることができる。多様な対象のうち倫理思想を読み取り得るということは、倫理思想の研究と、研究者の解釈行為との分かち難い関係性を示している。現代の研究者が過去の倫理思想を研究するとき、その研究は、研究者自身が置かれた現代という時代による制約性を避け難い面がある。他方、多少とも過去の人々の知恵が解明されるなら、それを光として、現代の人間観や世界観の側を問い直す可能性が開かれるだろう。過去の人々の知恵の解明は、われわれ自身の倫理的思索を深めるために必要不可欠の契機と考えられる。受験者は、自らの研究対象に即するかぎり、倫理思想史研究の意義について、考えるところを述べればよい。

【解答例】

小論文の出題であるため、出題の意図に鑑み解答の例は示しません。

【解答（採点）の指針】

- ・自らの研究対象に即するとき、そこに読み取りうる倫理思想の内実について示すことができているか。
- ・取り上げられた倫理思想について、その思想史的研究がどのような意義をもつか、自らの考察を展開することができるか。
- ・文章に論理的整合性がそなわっているか。
- ・漢字や送り仮名の誤りは減点対象としない。ただし、文法的誤り（てにをはの誤りや主述のねじれ等）は減点対象とする。

II

【出題の意図】

日本思想史上の古典的文献についての基本的知識、および、そこから抜粋された引用文に対する読解力を問う。（一）は『古事記』上巻、イザナキ・イザナミ神話から、イザナキの黄泉国訪問の部分である。死せるイザナミを連れ戻そうと黄泉国を訪れたイザナキが、宮殿内を見て畏怖・遁走し、黄泉国を脱出するまでの叙述である。（二）は景戒撰『日本霊異記』から、行基の行跡を伝える説話である（中巻第三十縁）。子連れ的女人を見た行基が、女人に子を捨てさせ、前生以来の二人の関係性を語ったという出来事が叙述される。

【解答例】

小論文の出題であるため、出題の意図に鑑み解答の例は示しません。

【解答（採点）の指針】

- ・それぞれの文献名が明らかにされているか。
- ・それぞれの引用文の思想的内容を読解し、表現することができるか。
- ・文章に論理的整合性がそなわっているか。
- ・漢字や送り仮名の誤りは減点対象としない。ただし、文法的誤り（てにをはの誤りや主述のねじれ等）は減点対象とする。